

平成27年度第1回融資運営委員会 議事録

■日時：平成27年7月28日（火）10時30分から11時50分

■場所：第一委員会室

■出席委員：流山商工会議所専務理事 上坂 操

（敬称略） 千葉銀行流山支店長 成島 崇

流山商工会議所常議員 小山 忠士

澤田税務会計事務所 澤田 敬

市民代表 青木 俊雄

市民代表 柴田 千絵

■説明者：千葉県信用保証協会 業務企画部 業務企画課 主査 内山 潤

■事務局：流山市役所 産業振興部 次長兼商工課長 金子 孝行

流山市役所 産業振興部 商工課 係長 柳 浩樹

流山市役所 産業振興部 商工課 主事 稲村 陽

■傍聴人：なし

■議題：

1 開会

2 報告事項

（1）平成26年度融資実績について

（2）平成27年度融資状況について

（3）セーフティネットの保証認定状況

（4）他市の状況について

（5）千葉県信用保証協会様の事例、取り組みについて

（6）最新の金融情勢等について

成島委員（千葉銀行流山支店長）からの説明

（7）その他

3 閉会

■議事録：

1 開会

（金子課長よりあいさつ。資料の確認）

（上坂委員長よりあいさつ。開会宣言）

2 報告事項

(1) 平成26年度融資実績について

(2) 平成27年度融資状況について

(事務局より説明)

(青木委員より資料1について誤りの指摘があり、事務局で修正対応した。)

(金子課長より、融資条例の改正による融資の要件緩和について説明をした。また、流山における市と商工会議所及び金融機関等の連携機関による、創業支援に関する取組について説明した。)

柴田委員：創業支援は、創業時のみならず、その後のフォローが大切だと思うが、アフターフォローについてはどのような取り組みを行うのか？

金子課長：ご指摘のとおり、創業前、創業時、創業後について伴走型支援が必要と考えており、商工会議所を通じた経営指導等のフォローや、市でもスクール受講生には継続的なヒアリング、情報提供などを行います。

保証協会様でも融資後のフォローを頂けることになっております。

澤田委員：平成26年度に比較して、融資利率が一律で0.1%下がったところは理解した。利子補給率は1.5%のまま据え置きとなっているが、こちらが引きあがることで、より魅力的な融資制度となると思うが。

金子課長：ありがとうございます。こういったお言葉を頂く事で、利率の見直しに弾みがつくこととなります。精一杯努力したいと思う。

(3) セーフティネットの保証認定状況

(事務局より資料をもとに説明)

青木委員：円高については5号の(ハ)で申請ができることが分かったが、現状は円安の状況である。円安による売上高の減少の場合は、どのように救済されるのか。

成島委員：同じく5号認定で、救済される。

*なお、この後、セーフティネット5号(ハ)円高による売上高減少等の要件は、平成26年度をもって廃止となったことを確認した。

(4) 他市の状況について

(事務局より説明)

*質疑・コメントなし

(5) 千葉県信用保証協会様の事例、取り組みについて

(千葉県信用保証協会 業務企画課 主査 内山様より説明)

金子課長：担保や第三者保証が不要となったことで、融資が利用しやすくな

ったと思うが、審査における影響としてはどのようなものがありますか。

内山主査：単に厳しくなったという印象はないが、なるべく対面でお客様に話を伺ってから審査をするなど、より丁寧に対応するようになった。

青木委員：創業支援における金融機関との連携については、どのような取り交わしをしているのか。回収についても協調して行うのか。

内山主査：(配布資料) オール千葉における全国初の取組。

覚書は協会・公庫様・金融機関の間で交わしたもので、意思の疎通を確認したものである。回収方針は案件により異なるので、予めの取り交わしはなじまない。まずは入口の部分から連携をしようというものである。

青木委員：せつかくこういう制度があるので、たとえば創業がうまく行かなくて、再生が必要となった際にも、何らかの連携を図ることはできないか。

成島委員：もともと、創業支援においては、実務的に3者が連携をすることは以前からあった。今回、これを文書で明文化したものである。ご指摘のとおり、我々もお金をお貸しするところがスタートであり、そこから長いお付き合いが始まる訳なので、その後も経営改善や経営再生に関する連携は行っている。

(6) 最新の金融情勢等について

成島委員：現状の国内の動向については、国内部門は堅調な一方、輸出はペースが落ちている。4～6月のGDPも減速の見通し。直近ではギリシア問題、中国経済の減速が、影響している。国内は企業収益も改善し、設備投資、個人消費、インバウンド需要において前向きな動きが見られる。総じて、外需の下押しの圧力と、内需の上向きの圧力がせめぎ合っているような印象。これから好循環の歯車が回り始めるのかは、なかなか見極めにくい状態。

最近注目されたのは、中国の景気動向である。表向きは4～6月のGDPは7%前後の成長とされているが、実態は非常に悪いのではないかと言われている。現在出始めている決算発表において、自動車や一部の電子部品、高額品等で、中国向けの売り上げが減速している。日本における対中国向けの投資は、今年の1月～6月は前年対比で約16%ダウン、貿易収支も過去最大の赤字を計上している。今後、輸出の動向については中国経済の減速の見極めが最大のポイントである。

一方で、内需における設備投資と個人消費は底堅い。自動車、機械、物流、小売り、飲食は、投資の上積みがされている。日銀短観でも前年比18.7%、直近の実績もリーマンショック前の水準に回復している。個人消費も消費増税以降は低迷していたが、回復傾向にあり、家計の支出も前年比で5%増、小売りの販売額も3%増となっている。現状、物価は横ばいとされているが、

原油安の影響でのマイナスがあるので、実態上は1%以上増えている。設備投資が順調なものも、小売りやメーカーが値上げしても売上げが落ちない状況で、消費者が値上げを受け入れる環境にあるということ。賃金水準が上がりつつあり、消費増税や、物価上昇分を含め、実質賃金が上昇しているが、今後も為替の影響もあり、今後も物価上昇が見込まれる。

地元企業に関しては、自動車関連の事業者に聞き取りをすると、業績は堅調である。中国は減速しているが、先進国向けは伸びている。また、為替と原油安のメリットが拮抗している。将来の売上げ増を見込んだ倉庫の拡張などに取り組んでいる企業もある。

TX 関連で言うと、ご存知のように週を追って開発が進んでいるが、不動産会社の話を聞くと、価格もだいぶ高止まりの状況にあり、住宅についてはピークではないか。

金利については、前年10月に日銀の金利緩和以降は大きな動きもないが、トレンドとしては下がる方向にある。

創業に関しては、地元企業として、尽力していきたいと考えている。

柴田委員：金利については、アメリカの出口戦略が話題になっている。10月にも金利引き上げがあるのではないかという話もある。今後をどのように見ているか。

成島委員：アメリカと日本は真逆の金利戦略である。日本は当初、2015年末に物価目標2%の目標を立てていたが、現状の見通しでは原油安もあり、2016年中もしくは前半にインフレ2%というように見込み数値を遅らせている。来年の前半までは現状が続くのではないか。理屈として、為替としては、さらに円安に進む見込みもあり、そこまでの円安を許容するようなコメントも見られる。為替がここまで進むことも見ながら、金利戦略を立てる必要があるのではないか。

上坂委員：今朝も中国の実態が悪いのではないかと言うニュースを耳にした。その他、何か事務局から説明や報告はあるか。

金子次長：(プレミアム商品券の販売やふるさと納税に関する取組について説明及び今後の流山市中小企業資金融資の取組の方向性について説明)

以上